

資料編 ～総合計画市民ワークショップ～

1 市民ワークショップの概要

河内長野市市民ワークショップでは、河内長野市第5次総合計画を策定するにあたり、市民の視点から河内長野市のまちづくりを検討していくため、市民アンケートや広報等を通じて参加者を募り、以下の5つのテーマごとにグループを構成し、ワークショップ方式により話し合いを進めてきました。

スタートアップセミナーでは、ワークショップをスムーズにスタートさせるために、ワークショップの目的や実施方法、河内長野市の現状等の情報共有を図り、話し合いを始める前の意識の統一を図りました。また、参加者の興味・関心のあるテーマについて、ご意見をいただき、第1回以降のグループ編成に反映しました。

第1回のワークショップでは、グループごとに地域の「強み＝魅力」と「弱み＝課題」について意見を出し合い、KJ法^{*}にてグルーピングしました。

第2回のワークショップでは、第1回で検討した強みと弱みを踏まえ、グループテーマごとに将来、河内長野市がどんなまちであってほしいかという目指すべき将来像を検討しました。

第3回のワークショップでは、第2回で描いた将来像を実現するために、プロジェクト化するテーマ（分野）について話し合い、プロジェクトの内容を具体化していきました。

第4回のワークショップでは、第3回に引き続き、プロジェクトの「目的」「取組内容（市民、地域、行政）」「必要な資源・解決が必要な課題」などを検討し、プロジェクトの内容をさらに具体化させました。

そして、第5回のワークショップでは、第4回のプロジェクトをまとめた提言書について確認し、話し合った内容を共有するとともに、グループごとに提言内容を深めました。

このような検討の過程を経て、この提言書が生まれており、今後、第5次総合計画の策定において、提言いただいた内容を反映するとともに、市民と行政の協働や役割分担によりまちづくりを進めていくためのアイデアとして活用します。

■各テーマと参加人数

グループ	テーマ内容	人数
1	環境・景観	8名
2	福祉・健康・スポーツ	11名
3	教育・歴史	11名
4	商工・農林・観光	10名
5	安心・安全・都市基盤	9名

※KJ法

KJ法は、話し合いで出された意見について、似たもの同士で集めグループ分けをしながら、問題解決のアイデアを出していく手法です。

KJ法の呼び名は、考案者・川喜田二郎氏のイニシャルを由来としています。

■ワークショップの全体プログラム

開催日時	会場	内容
<p>スタートアップ セミナー 12月14日(土) 13:00~15:00</p>	<p>市役所8階 802会議室</p>	<p>【第1部】オリエンテーション ○市民ワークショップの目的 ○河内長野市の現状 ○ワークショップの実施方法 【第2部】ワークショップ ○あなたが話し合いたいことはなんですか？ ⇒次回からのグループ設定の参考にしました。</p>
<p>第1回 1月11日(土) 13:00~15:00</p>	<p>市民交流センター (キックス) 3階大会議室</p>	<p>「河内長野市の今を見つめよう」 ・河内長野市の「強み＝魅力」と「弱み＝課題」について、話し合っていました。</p>
<p>第2回 1月18日(土) 13:00~15:00</p>	<p>市民交流センター (キックス) 3階大会議室</p>	<p>「河内長野市の未来予想図を描こう」 ・第1回で話し合った「強み＝魅力」を活用したり、「弱み＝課題」を解決しながら目指すグループテーマごとの未来を話し合っていました。</p>
<p>第3回 2月1日(土) 13:00~15:00</p>	<p>市民交流センター (キックス) 3階大会議室</p>	<p>「河内長野市の未来予想図を実現する方策を考えよう」 ・第2回で話し合ったまちの未来を実現するための方策について話し合っていました。その際、自助・共助・公助など、役割分担についても意識したものとしました。</p>
<p>第4回 2月15日(土) 13:00~15:00</p>	<p>市民交流センター (キックス) 3階大会議室</p>	<p>「河内長野市の未来予想図を発表しよう」 ・第3回まで話し合ってきた内容を踏まえた、まちの将来像と、実現のためのアイデアをとりまとめ、全体に向けて発表しました。</p>
<p>第5回 3月1日(土) 13:00~15:00</p>	<p>市民交流センター (キックス) 3階大会議室</p>	<p>「河内長野市を“もっと”元気にするための提言をまとめよう」 ・第4回まで話し合ってきた内容を振り返りながら、提言書としてとりまとめを行いました。</p>

2 スタートアップセミナーについて

■実施概要

スタートアップセミナーは、12月14日（土）13時00分～15時00分で開催し、46名の方が参加されました。

第1部では、ワークショップをスムーズにスタートさせるために、ワークショップの目的や実施方法、河内長野市の現状や、市民アンケート、中学生ワークショップの結果等の情報共有を図り、話し合いを始める前の意識の統一を図りました。

第2部では、次回以降のワークショップに向けて、それぞれが関心を持っていることについて話し合いました。自分自身の意見、グループの中での意見を踏まえ、ワークショップで話し合いたいテーマを以下の中から選びました。

1. 『環境』について	9. 『農林業』について
2. 『景観』について	10. 『観光』について
3. 『福祉』について	11. 『雇用』について
4. 『健康』について	12. 『安全・安心』について
5. 『教育』について	13. 『都市基盤』について
6. 『歴史・文化』について	14. 『協働・ボランティア』について
7. 『スポーツ』について	15. 『その他』（ ）について
8. 『商工業』について	

選んでいただいた分野をもとに5つのテーマを設定しました。

グループ	テーマ
1	環境・景観
2	福祉・健康・スポーツ
3	教育・歴史
4	商工・農林・観光
5	安心・安全・都市基盤

■当日プログラム

☆作業1 自己紹介をしましょう

10分程度

- 本日のグループは、無作為に振り分けられたメンバーであるため、はじめて会う人も多いと思います。お名前とお住まいの地域など、簡単に自己紹介をしましょう。

☆作業2 ワークショップで話し合いたいことを考えましょう

15分程度

- 本日から始まるワークショップで、話し合いたいこと（気になっていること、変えたいと思うこと、活動したいと思うことなど）をフセン紙に書きましょう。1枚のフセンには、1つの意見でお願いします。

☆作業3 フセンに書いた内容を読み上げましょう

20分程度

- 作業2で書いたフセンを一人ずつ読み上げましょう。他の参加者がどんなことに興味を持っているかを聞いてみましょう。

☆作業4 同じような意見をまとめましょう

15分程度

- それぞれの意見について同じようなものをまとめ、グループの中でどんな分野に意見が集まっているか確認してみましょう。

☆作業5 話し合った意見を全体で紹介しましょう

15分程度

- グループで話し合った内容を、全体で紹介しましょう。1グループ3分程度でかまいません。

☆作業6 話し合いを踏まえ、次回から参加したいテーマを選びましょう

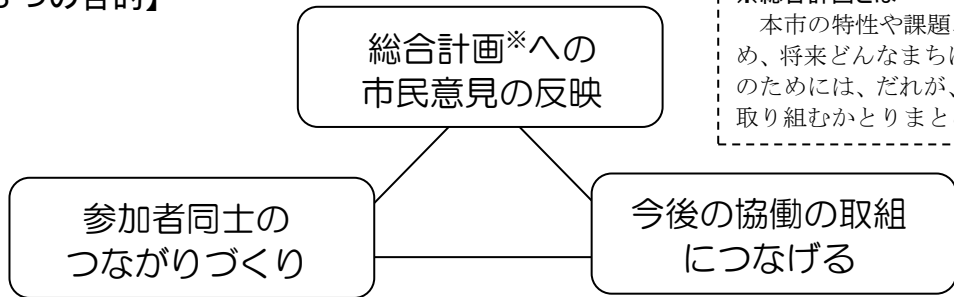
10分程度

- 自分の意見、グループの中での意見を踏まえ、次回以降参加したいテーマを選び、シートに記入しましょう。

■ワークショップの目的

河内長野市を“もっと”元気に！ 河内長野の未来予想図

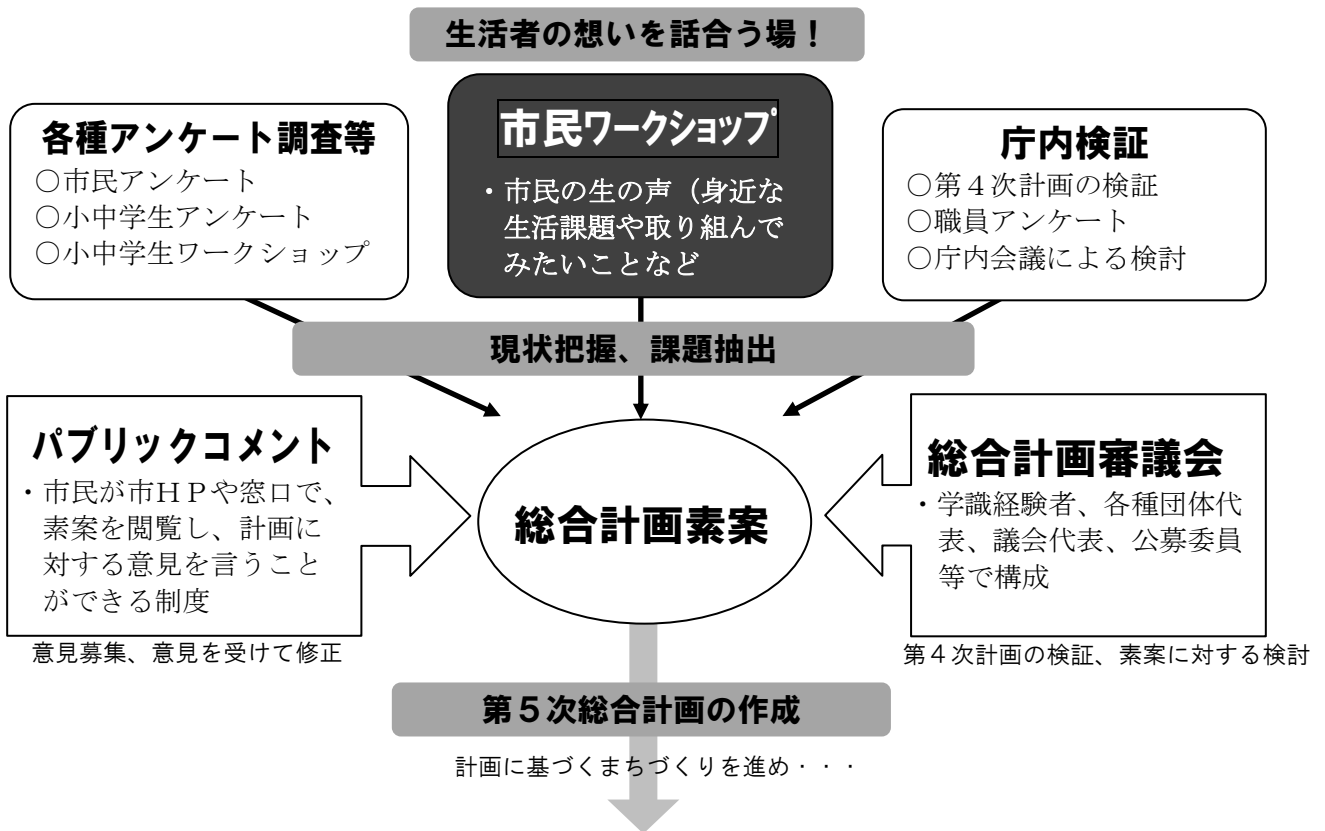
【3つの目的】



※総合計画とは・・・
本市の特性や課題、時代の流れを見極め、将来どんなまちにしていきたいのか、そのためには、だれが、どのような手法で取り組むかとりまとめた長期計画です。

河内長野市の未来を市民も行政もみんなで創っていくために、みなさんの想いを聞かせていただくとともに、これからのまちづくりのスタートのきっかけづくりにつなげることを目指します。

(総合計画策定の流れ：イメージ)



“もっと”元気の河内長野市の未来へ！！

■ワークショップの進め方

ワークショップは、先生や講師から一方的に話を聞く会議ではなく、**参加者が対等な立場で主体的に議論に参加**したり、言葉だけでなくからだやこころを使って体験したり、参加者相互の意見により刺激し合い、学び合う、**グループによる検討方法**です。

1. ワークショップのルール

ルール1 相手の意見を尊重しましょう！

ワークショップには、年代も性別も、これまでの人生経験も異なった人が集まっているため、河内長野市への想いや、考え方は様々です。

相手の考えや感じ方を尊重しながら、学び合い、一人で考えるよりもより豊かな結論に向かうことをめざしましょう。

一方的な伝達や発表ではなく、自由な発想や対話による相互作用を大切にします。

ルール2 思いつきでも、とにかく声に出そう！

このワークショップでは、相互作用を生んでいくために、自由な発想を歓迎しています。

正解があるわけではないので、みんながどんどん意見を言い合うことで、グループの中でイメージを形にしていきましょう。

より多くの意見が、生き生きとしたワークショップを生み出します。

ルール3 1回の発言はできるだけ短く。みんなが発言できるようにしよう！

ワークショップを自由で楽しく、相互作用を生む場にするためには、参加者全員の発言が欠かせません。しかし、一人の人が長く話をしてしまうと、他の人に発言の機会がまわらなくなってしまいます。

人が集中して他人の話を聞けるのは1、2分位といわれており、せっかく大切なことを話していてもみんなの記憶に残りません。

みんなが自分の意見を話せる機会を持てるよう、発言はできるだけ短くしましょう。

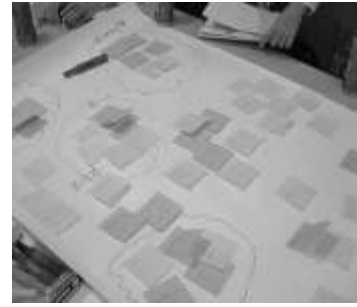
2. ワークショップの進行は…

グループごとに進行役のスタッフが入って、話し合いの補助を行いました。

3. 具体的な進め方

I 主な流れ

- ① 意見をフセンに書く
- ② 発表しながらフセンを模造紙に貼る
(似たもの同士のフセンは分類分けする)
- ③ 意見を分類し、タイトルをつける
- ④ 全体発表



①

■教育の充実（例）

家庭教育の充実

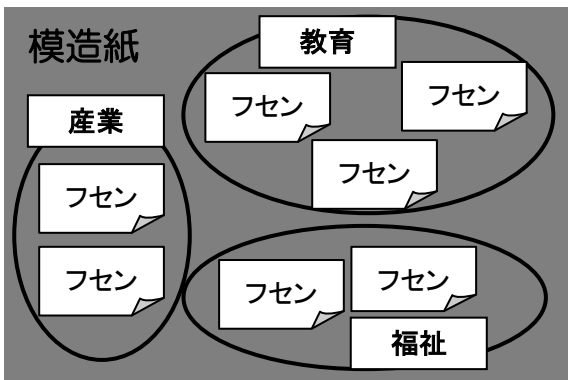
②

模造紙



③

模造紙



④

全体発表

II 注意点

- ① 意見は必ずフセンに書いて模造紙に貼る
- ② 他の参加者の意見を批判したり、否定したりしない
- ③ 積極的に参加する（傍観者にならない）

III ポイント

- ① 間違いはないので積極的に発言する
- ② 意見が出にくい場合は、他の人の立場で考えてみる
- ③ 他の人の意見を聞いて、もう一度考えてみる

3 第1回～第5回のワークショップについて

第1回ワークショップ

■実施概要

第1回ワークショップは、「河内長野市の今を見つめよう」をテーマに1月11日（土）の13時00分～15時00分で実施し、46名の方が参加されました。

今回のワークショップでは、グループごとに地域の「強み＝魅力」と「弱み＝課題」について意見を出し合いました。

■当日プログラム

☆作業1 自己紹介をしましょう

10分程度

- ・本日のグループは、テーマごとに分かれていますので、スタートアップセミナーとは違うメンバーです。お名前とお住まいの地域など、簡単に自己紹介をしましょう。

☆作業2 河内長野市の「強み」と「弱み」を考えましょう。

20分程度

- ・グループテーマに沿った河内長野市の「強み＝魅力（他のまちと比べて良いところなど）」「弱み＝課題（まちをよりよくするために解決しなければならないことなど）」を、フセン紙に書きましょう。1枚のフセンには、1つの意見でお願いします。

☆作業3 フセンに書いた内容を読み上げましょう

40分程度

- ・作業2で書いたフセンを一人ずつ読み上げ、模造紙に貼っていきましょう。他の参加者がどんな意見を持っているかを聞いてみましょう。

☆作業4 同じような意見をまとめましょう

30分程度

- ・それぞれの意見について同じようなものをまとめ、タイトルをつけながら、グループの中でどんな分野に意見が集まっているか確認してみましょう。

☆作業5 話し合った意見を確認しましょう

10分程度

- ・グループで話し合った内容について確認しましょう。

第2回ワークショップ

■実施概要

第2回のワークショップは、「河内長野市の未来予想図を描こう」をテーマに1月18日(土)の13時00分～15時00分で実施し、35名の方が参加されました。

今回のワークショップは、第1回で検討した強みと弱みを踏まえ、グループテーマごとに将来、河内長野市がどんなまちであってほしいかという目指すべき将来像を検討しました。

最後に、グループで話し合った内容を全体に向けて発表しました。

■当日プログラム

☆作業1 第1回の意見を振り返りましょう。

10分程度

- ・第1回で話し合った、河内長野市の「強み＝魅力」と「弱み＝課題」について、どんな意見がでていたか、振り返ってみましょう。

☆作業2 河内長野市の未来予想図を描きましょう。

20分程度

- ・グループテーマに沿った内容で、どんなまちになってほしいか、河内長野市の未来予想図を描きましょう。その際、どんな魅力を活かしていくか、どんな課題を解決しているかを踏まえて考えてみましょう。1枚のフセンには、1つの意見をお願いします。

☆作業3 フセンに書いた内容を読み上げましょう

40分程度

- ・作業2で書いたフセンを一人ずつ読み上げましょう。他の参加者がどんな意見を持っているかを聞いてみましょう。

☆作業4 同じような意見をまとめ、テーマ別の将来像を考えましょう

30分程度

- ・それぞれの意見について同じようなものをまとめ、グループとして、テーマに沿った将来像を考えましょう。例)「〇〇なまち 河内長野」等

☆作業5 話し合った意見を他のグループに紹介しましょう

15分程度

- ・グループで話し合った内容を、3分程度で簡単に紹介しましょう。

第3回ワークショップ

■実施概要

第3回のワークショップは、「河内長野市の未来予想図を実現する方策を考えよう」をテーマに2月1日(土)の13時00分～15時00分で実施し、当日は42名の方が参加されました。

今回のワークショップでは、第2回で描いた将来像を実現するために、プロジェクト化するテーマ(分野)について話し合いました。

また、設定したプロジェクトについて「目的」「取組内容(市民、地域、行政)」「必要な資源・解決が必要な課題」などを考え、プロジェクトの内容を具体化していきました。

■当日使用した資料

【本日の作業内容イメージ】 プロジェクトを考えましょう!!	
【プロジェクトタイトル】	【記入例】 【プロジェクトタイトル】 高齢者の安心生活プロジェクト
【実施目的】(何のために? 誰のために?)	【実施目的】(何のために? 誰のために?) ・ひとり暮らしの高齢者も安心して暮らせる地域を維持していくため ・元気な高齢者がいかに暮らしていくため
【取組内容】(誰が? どんな方法で?)	【取組内容】(誰が? どんな方法で?) (行政) ・ひとり暮らし高齢者のリストを整理し、関係者で共有する ・高齢者の人材バンクを作成し、活躍できる場をつくる (市民) ・ひとり暮らしの高齢者の自宅を訪問する「お話し隊」を結成する。 ・人材バンクに登録し、自分の能力を地域に活かす。 (事業者) ・地域の人が参加できる介護方法の教室を開く
【必要となる資源・解決が必要な課題等】(人・モノ・情報・金銭等)	【必要となる資源・解決が必要な課題等】(人・モノ・情報・金銭等) ・リストを共有できる信頼できる組織・団体 ・個人情報への配慮が必要 ・人材バンクを通して、活躍してもらう協会の確保

■当日プログラム

☆作業1 第2回の意見を振り返りましょう。

10分程度

- ・第2回で話し合った、グループテーマに沿った未来予想図について、振り返ってみましょう。

☆作業2 未来予想図実現に向けプロジェクト化するテーマを考えましょう。

20分程度

- ・未来予想図を実現するために、プロジェクト化するテーマ（分野）を話し合い、グループとして検討するものを設定しましょう。

☆作業3 プロジェクトの内容を考えましょう。

20分程度

- ・設定したプロジェクトについて、「目的」「取組内容（市民・行政）」「必要な資源・解決が必要な課題」など、具体化するアイデアを考え、フセンに記入しましょう。

☆作業4 フセンに書いた内容を読み上げましょう。

30分程度

- ・作業3で書いたフセンを一人ずつ読み上げましょう。他の参加者がどんな意見を持っているかを聞いてみましょう。

☆作業5 模造紙上でプロジェクトの内容を整理していきましょう。

20分程度

- ・作業4で出された一人ひとりの意見を模造紙上で整理しながら、プロジェクトの内容を具体化していきましょう。

☆作業6 話し合った意見を確認しましょう

10分程度

- ・グループで話し合った内容を振り返り、検討が不足している部分など、次回に向けた確認をしましょう。

第4回ワークショップ

■実施概要

第4回のワークショップは、「河内長野市の未来予想図を発表しよう」をテーマに2月15日（土）の13時00分～15時00分にかけて実施され、当日は34名の方が参加されました。

今回のワークショップでは、第3回に引き続き、プロジェクトの「目的」「取組内容（市民、地域、行政）」「必要な資源・解決が必要な課題」などを検討し、内容をさらに具体化させました。

最後に、グループで話し合ったプロジェクトの内容を全体に向けて発表しました。

■当日プログラム

☆作業1 第3回の話し合いを振り返りましょう。

10分程度

- ・第3回で話し合った未来予想図の実現のためのプロジェクトについて、振り返ってみましょう。

☆作業2 プロジェクトの内容を考えましょう。

40分程度

- ・プロジェクトの内容について、第3回に引き続き「目的」「取組内容（市民・行政）」「必要な資源・解決が必要な課題」など、具体化するアイデアを考え、模造紙に追加していきましょう。

☆作業3 発表の準備をしましょう。

30分程度

- ・これまでの話し合いを振り返り、発表する内容を整理し、発表方法を考えるなど、準備をしましょう。

☆作業4 全体に向けて発表しましょう。

30分程度

- ・グループで話し合った内容を全体に向けて発表しましょう。

第5回ワークショップ

■実施概要

第5回のワークショップは、「河内長野市を“もっと”元気にするための提言をまとめよう」をテーマに3月1日（土）の13時00分～15時00分にかけて実施され、当日は36名の方が参加されました。

今回のワークショップでは、第4回までに話し合ってきた内容を取りまとめた提言書について確認し、提言内容を深める検討を行いました。

■当日プログラム

1. 提言書の全体像について

- これまで話し合っていた内容について取りまとめた提言書の全体構成について説明します。

2 各グループの提言内容を確認しましょう

- それぞれのグループごとに提言内容について確認し、追加・修正など、ご意見をいただきます。

3 市民ワークショップ全体を通じた振り返りをしましょう

- 第1回から第4回まで、市民ワークショップの検討を振り返りながら、これからのまちづくりについて、自由に意見交換しましょう。

【第3回 プロジェクト】

平成26年2月1日(土) 第3回 1期 プロジェクト

1班 環境・景観部会

・河内長野市の「環境」とは…
・自然・環境・景観とは…

「環境・景観」を
重層的に捉えること
(市全体・生活環境・景(みるもの)観(みる人)・ごみ・清掃…)

景：みるもの
観：みること
環境：みるもの
観：みること
みるもの
観：みること
みるもの
観：みること

・大連山自然保
・ごみ問題

・河内長野市の位置づ
・歴史的景観は整備
されている

・環境的に捉えてく
・市全体の生活

・景観
・景観的に捉えて
・環境的に捉えて

<p>①</p> <p>【プロジェクトタイトル】</p> <p>大連山への寄付活動 への誘導カンパ ンの実行と案内書 (日・駅) 誘導書の 作成</p> <p>印書の整理 (方向性/PR)</p> <p>親化 PR推進</p> <p>【実施目的】</p> <p>PR 市内長野野へ広く 市民の参加を促 す</p> <p>取組内容</p> <p>行政</p> <p>市民</p> <p>事業所</p> <p>【必要となる資源】</p> <p>①河内長野の出身 のタレント</p>	<p>②</p> <p>【プロジェクトタイトル】</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>「景観」に人々の ・自然 ・環境 ・景観 の保全を図る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>【実施目的】</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>取組内容</p> <p>行政</p> <p>市民</p> <p>事業所</p> <p>【必要となる資源】</p> <p>①河内長野の出身 のタレント</p>	<p>③</p> <p>【プロジェクトタイトル】</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 PRプロジェクト</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 PRプロジェクト</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 PRプロジェクト</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 PRプロジェクト</p> <p>【実施目的】</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 PRプロジェクト</p> <p>取組内容</p> <p>行政</p> <p>市民</p> <p>事業所</p> <p>【必要となる資源】</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 PRプロジェクト</p>
--	---	--

【第4回 プロジェクト】

平成26年2月15日(土) 第4回 1期 プロジェクト

1班 環境・景観部会

・河内長野市の「環境」とは…
・自然・環境・景観とは…

「環境・景観」を
重層的に捉えること
(市全体・生活環境・景(みるもの)観(みる人)・ごみ・清掃…)

「3つのプロジェクトが
連動することが大事」

「将来テーマ」みんなで作る「ぼんまもん」の環境・景観のまち

<p>【プロジェクトタイトル】</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 PRプロジェクト</p> <p>【実施目的】</p> <p>①河内長野を訪れる 人の海(市民もふく む) 市内長野野はこんな にいい所なんだ わがわがふる里</p> <p>取組内容</p> <p>行政</p> <p>市民</p> <p>事業所</p> <p>【必要となる資源】</p> <p>①河内長野の出身 のタレント KDG48</p>	<p>【プロジェクトタイトル】</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 形成プロジェクト</p> <p>【実施目的】</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>【実施目的】</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>取組内容</p> <p>行政</p> <p>市民</p> <p>事業所</p> <p>【必要となる資源】</p> <p>①河内長野の出身 のタレント</p>	<p>【プロジェクトタイトル】</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 協働プロジェクト</p> <p>【実施目的】</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>【実施目的】</p> <p>自然保護 「ぼんまもん」の自然 を存 る</p> <p>取組内容</p> <p>行政</p> <p>市民</p> <p>事業所</p> <p>【必要となる資源】</p> <p>「ぼんまもん」の環境・景観 協働プロジェクト</p>
--	---	---

【第4回 環境・景観部会プロジェクト発表内容】

- ・キーワードはほんまもん

■ほんまもんの環境・景観形成プロジェクト

- ・河内長野の大部分を占める森林、山を守ろうということから、自然を活かした1000年の森、くろまろにかけると1400年の森をつくる
- ・地権者はいるものの、市でスギやヒノキの山を自然の森、広葉樹の森に帰して水源の森をつくっていく→ほんまもんの水を流し、販売する
- ・市民は、自然を観察し、見守る
- ・森林組合の協力を得る
- ・自然を観察するための奥河内自然情報センターをつくる

■ほんまもんの環境・景観協働プロジェクト

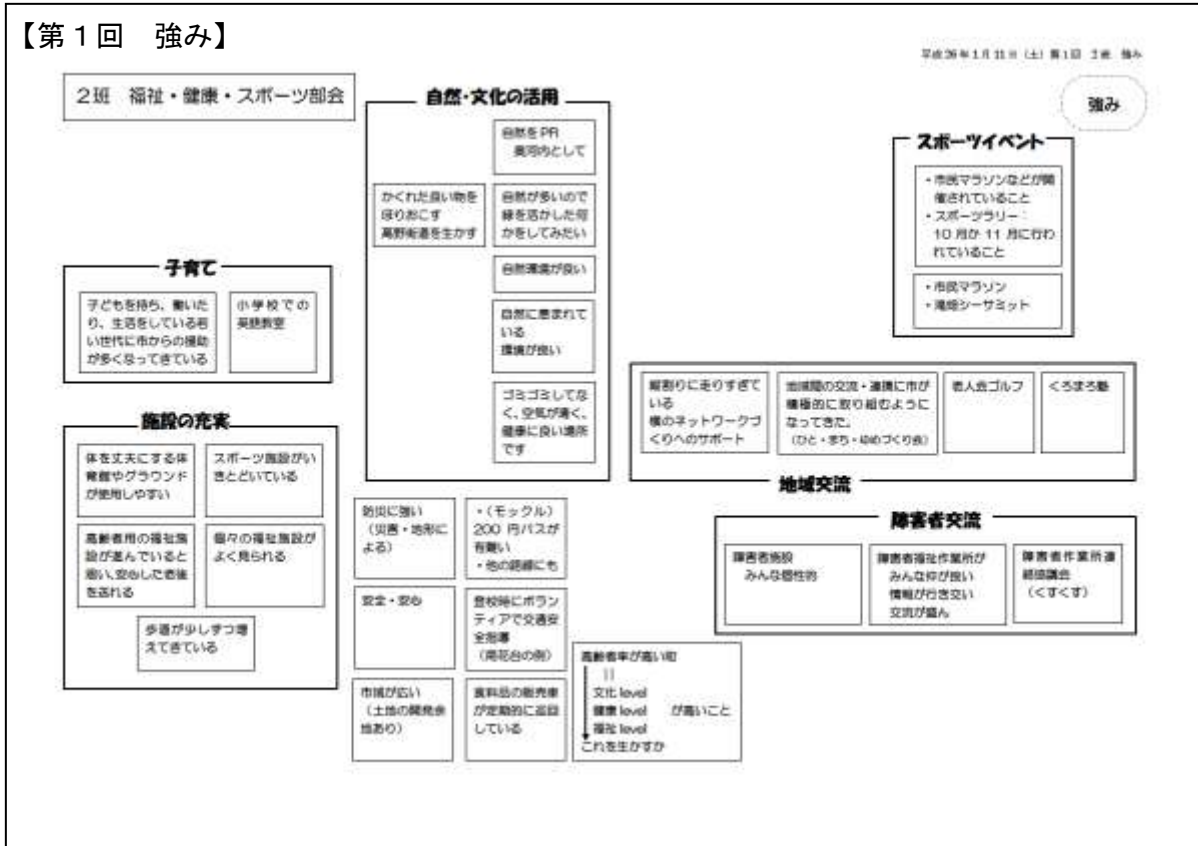
- ・自分達で自分達の自然を守るには、ボランティアがキーワード
- ・市の広報でボランティアの宣伝や里山整備の公募をしてもらう
- ・企業にもゴミの減量を頑張ってもらい、頑張った企業は市の広報でPRしてもらう
- ・市民の提言を受け付けるところをつくる

■ほんまもんの環境・景観PRプロジェクト

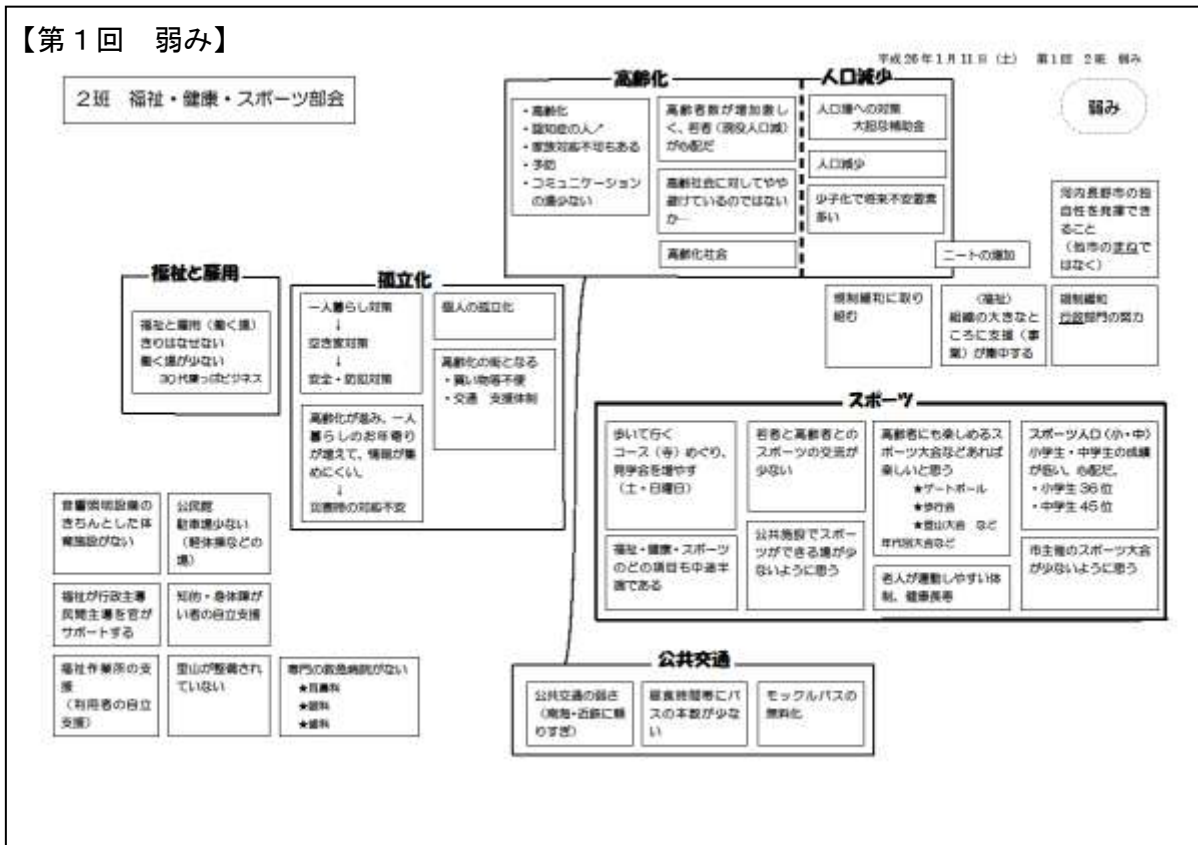
- ・プロジェクトでつくった環境・景観を河内長野の人や河内長野以外の人に知ってもらうためにPRすることが必要
- ・ボランティアやシルバー人材センターの利用
- ・きれいなまちのイメージづくりと広報活動
- ・市長にほんまもんのまちづくりの市長宣言をつくってもらう
- ・河内長野出身のPRタレントをつくる（KOG48。河内長野のおじいちゃん、おばあちゃん48人）

2班 福祉・健康・スポーツ部会

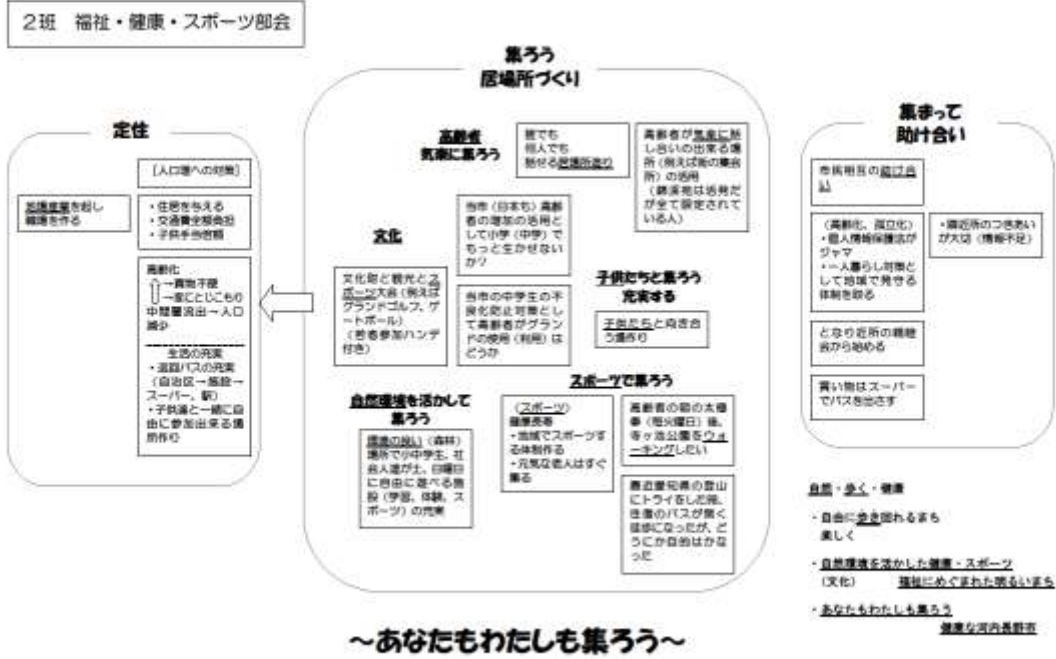
【第1回 強み】



【第1回 弱み】



【第2回 将来像】



【第3回 プロジェクト】



【第4回 プロジェクト】

平成28年1月15日(土) 第4回 2班 プロジェクト

2班 福祉・健康・スポーツ部会

～あなたもわたしも集ろう～

【プロジェクトタイトル】
集まって助け合いプロジェクト

【素直目的】 (何のために? 誰のために?)

集まって助け合い 【素直目的】 町内会・公民会から「地域の向上」について「助け合い」が生まれる	生活者の声 住みやすい町・地域づくりの場
インフュージョン活動 協賛企業でできる活動 参加の場も広がる	地域は - 企業 - 市民教育

集ろう居場所づくりプロジェクト

コーディネート コンシェルジュ の活動 【活動目的】 子ども、高齢者、高齢者への支援 考え方が変わってくる	集まる居場所づくりプロジェクト 【活動目的】 「わたし」から自分たちの集まる居場所 に集まりたい 集まるだけあって集まるだけではない 文化、芸術 ・その活動には誰でも参加できる(年齢・障がい関係なく) ・新になる人は必ず
--	---

定住促進プロジェクト

定住のために (協賛企業)協賛企業 をつくる 高齢者・障がい者・ニートだけでも集まる ・親睦会になる ・遊休地の活用 (空き家等)	定住促進 親睦会 定住促進会、居場所の 活動の促進
---	------------------------------------

【聖域内容】 (誰が? どの分野で?)

行政	市民	地域
民生委員、自治会、老人会、町内会 協賛企業協賛企業 水産会、農協、食料 の生産者等	集まって助け合い 【活動目的】 高齢者の中で・クラブ活動の性 ・専門家の活用 ・協賛企業の活用	各地域へ積極 的に関与 【活動目的】 協賛企業をつければ 集まる
シルバー人材セン ター・公民 ・高齢者支援せり もあてては	生活者の声 【活動目的】 生活者の声 【活動目的】 生活者の声	子どもから高齢者 まで参加できる 【活動目的】 子どもから高齢者 まで参加できる
・自治会 ・老人会 ・民生委員 ・協賛企業 ・市民 ・協賛企業 ・市民	生活者の声 【活動目的】 生活者の声 【活動目的】 生活者の声	子どもから高齢者 まで参加できる 【活動目的】 子どもから高齢者 まで参加できる

【必要となる資源 解決が必要課題】

協賛企業の活用 ・もろづからの 活用	集まる居場所としての 居場所の活用	① 高齢者の集まる ・新しい居場所の活用 ・新しい居場所の活用	② 「集まる居場所」 ・新しい居場所の活用 ・新しい居場所の活用	③ 協賛企業の活用 ・新しい居場所の活用 ・新しい居場所の活用
--------------------------	----------------------	---------------------------------------	--	---------------------------------------

【第4回 2班 福祉・健康・スポーツ部会プロジェクト発表内容】

■集まって助け合いプロジェクト

- ・健康はあいさつから、あいさつが基本
- ・少子高齢化時代なので、自治会、老人会、民生委員会、福祉協議会、子ども会などバラバラの活動を一本化し、地域の合同会議を始めて良いものを生み出していく
- ・小学校区、中学校区もバラバラになっているので意見交換の場を設ける

■集まろう居場所づくりプロジェクト

- ・基本になるのは各地域の自治会
- ・各地域の自治会で親睦会、自治会館でお茶飲みをやる
- ・地域の自治会の班ごとに小さな集まりからスタートすることで必ずいいことが生まれる
- ・隣近所に誰が住んでいるかわからない時代だが、親睦を深め、深い人間関係を築いていくことで防災など色々なことにつながる

■定住促進プロジェクト

- ・健康・福祉という観点からの定住の促進
- ・福祉やスポーツといってもやはり健康が第一
- ・子ども、高齢者、少子高齢化に重点を置く
- ・小学校のグラウンドを活用し、高齢者の姿を見てもらうことで子どもの非行防止に役立つのではないかと
- ・元気な高齢者のパワーをPRして人を集めるようにしたらどうか
- ・自治会の役員が3年では高齢者が多い地域は難しいので、連合自治会で若い会長をつくり、建設的にまとめてはどうか

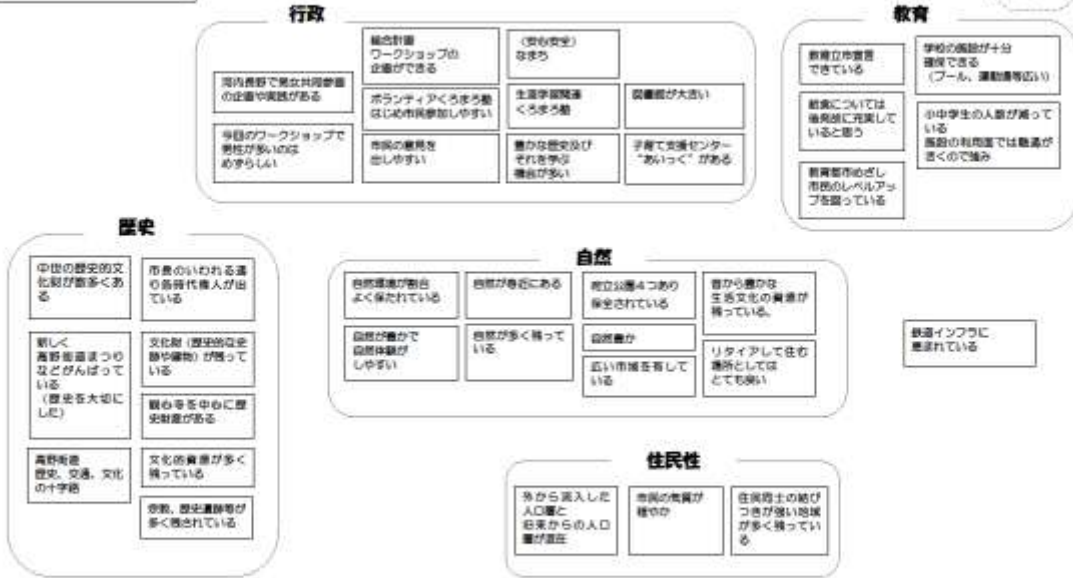
3班 教育・歴史部会

【第1回 強み】

平成26年1月11日(土) 第1回 3班 強み

3班 教育・歴史部会

強み

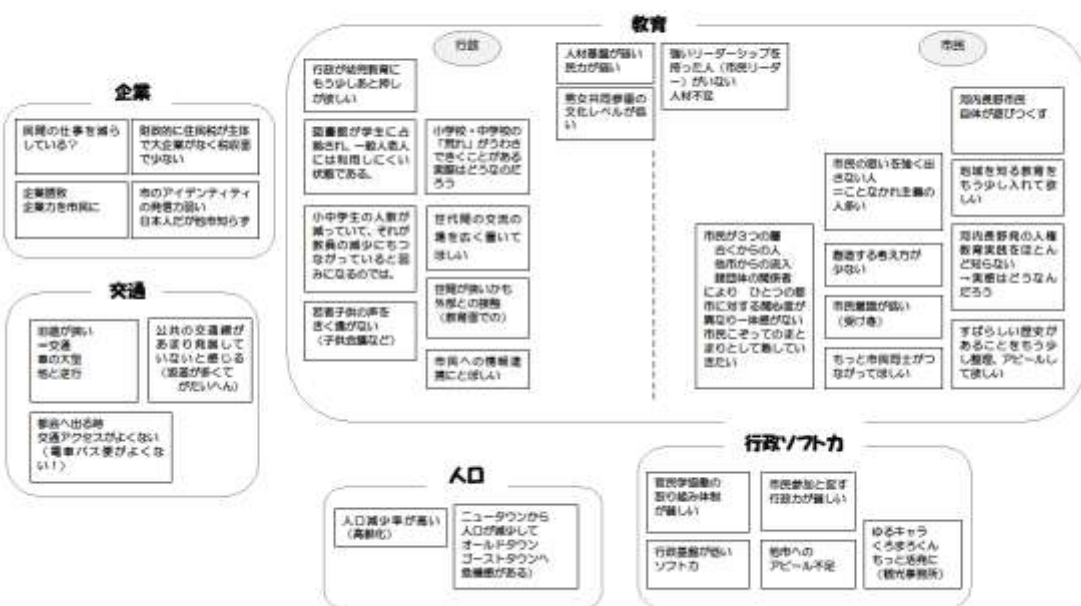


【第1回 弱み】

平成26年1月11日(土) 第1回 3班 弱み

3班 教育・歴史部会

弱み

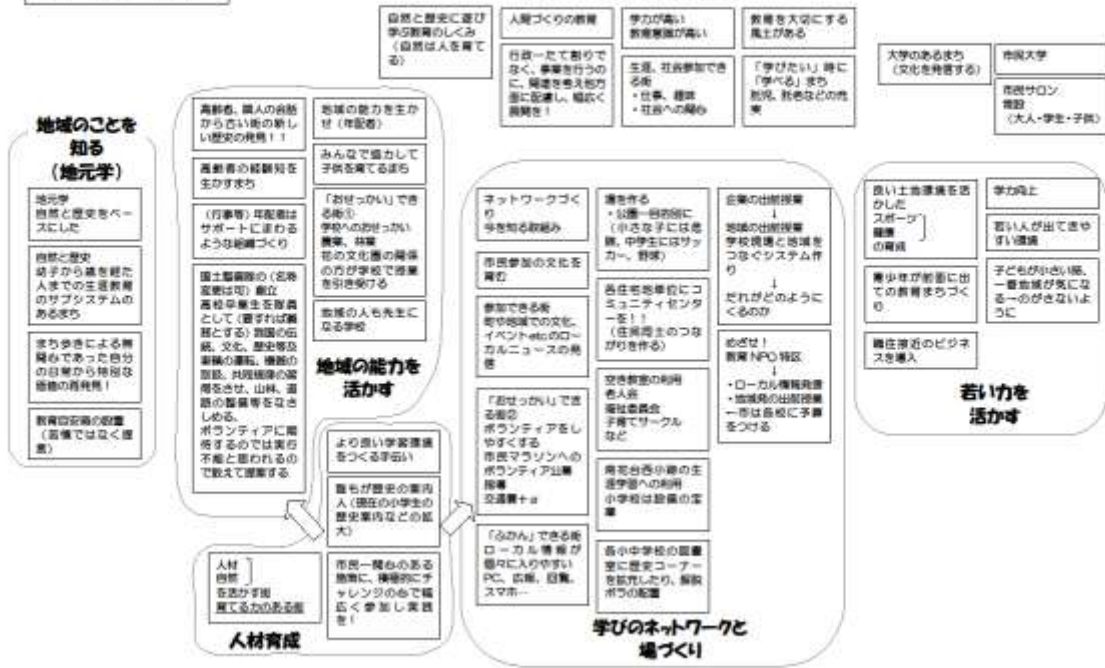


【第2回 将来像】

平成28年1月18日(土) 第2回 3歳 将来像

3班 教育・歴史部会

育てる力のある町



【第3回 プロジェクト】

平成28年2月1日(土) 第3回 3歳 プロジェクト

3班 教育・歴史部会

プロジェクトタイトル

① 育つ場づくり

② 地域情報の見える化

実施目的

① 地域の人的資源を生かす	② 地域の歴史・文化を再発見し、観光に生かす	③ 学びのリーダーになる人材の発掘と育成	④ 多様な課題がある学びの場をつくる	⑤ 人のつながりをその場を通して育成	⑥ 地域に点在するコミュニティ、人物、事を発掘し、誰もが見えるようにする	⑦ 情報の共有化で市民参加の文化を育む	⑧ 地域で活動する熱い人に光を当て、互いの情報・ネットワーク	⑨ 広域や国境に頼らない情報提供連携として
市民が自らの課題を見つけ、集めている時間と場所の提供	① だれもが自分の力を発揮できるまちづくり	市民の進め方による市民大学の設立	遊歩道や緑地のある、憩いをもった人育てるための	「私」の出来る事を課題、目標	広域だけでなく、近隣のまちと連携する	市内の歴史・文化を再発見し、観光に生かす	⑩ 地域の活動・行事・イベントを毎日発信できる地域情報発信の場をもちこ	⑪ 河内長野に集まる

取組内容

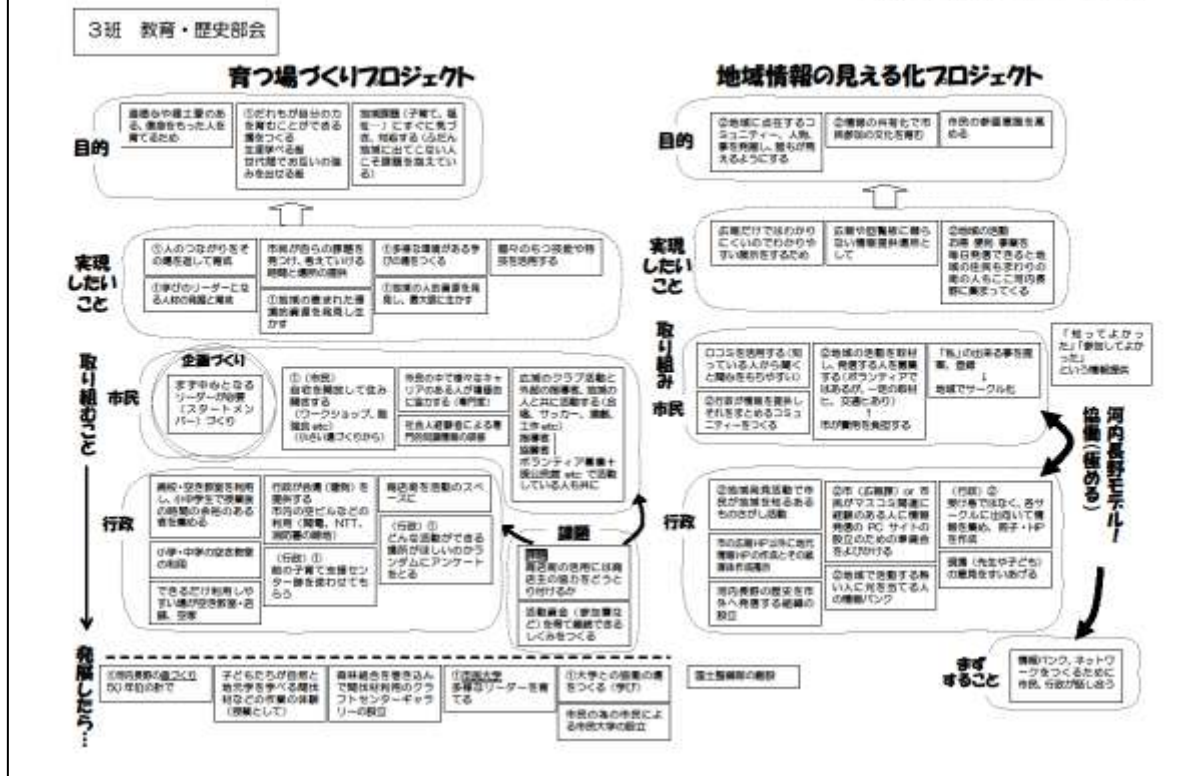
行政の企画(課題)を整理する 市内の定例など 消防団の連携	(行旅) ① どんな活動ができる場所がないのか クラウドファンディングをとる	(行旅) ② 前の子育て支援センターと連携を促す	③ 市内大学 多様なリーダーを育てる	④ 市内大学の協賛の場をつくる(学び)	⑤ 市立(五箇部)や市民がマスコット関連に経験のある人に情報発信のPCサイトの設立のための準備会をよびかける	⑥ 市の広報HP以外に地元情報HPの作成とその信頼性確保	⑦ (5回) ⑧ 発信場ではなく、各サークルに出向いて情報を集め、電子HPを作成	⑨ 連携(先生や子ども)の意見を取り入れる
市民の中で様々なキャリアのある人が積極的に協力する(専門家)	① (市民) 自然を尊重して生かす (ワークショップ、勉強会etc) (小さい集まりから)	森林組合を巻き込んで解村利用のクラウドファンディングの設立	高校・空教室を有効活用、小・中学生で授業後の時間のある者を中心に、地域のクラブ活動と外部の指導者、地域の人と共に活動する(台帳、サッカー、演劇、工作etc) 指導者 指導者 ポランティア(農業+観光関係)etcで活動している人も共に	⑥ 行政が情報を提供しそれをまとめるコミュニティをつくる	⑦ 地域発見活動で市民が地域を知る	⑧ 地域の活動を取材し、発信する人を募集する(ボランティア等) (小さい集まりから)	⑨ 市民の参画意識を高める	

必要となる資源 解決が必要な課題など

国土整備関係の助成

【第4回 プロジェクト】

平成28年2月15日(土) 第4回 3班 プロジェクト



【3班 教育・歴史部会プロジェクト発表内容】

■育つ場づくりプロジェクト

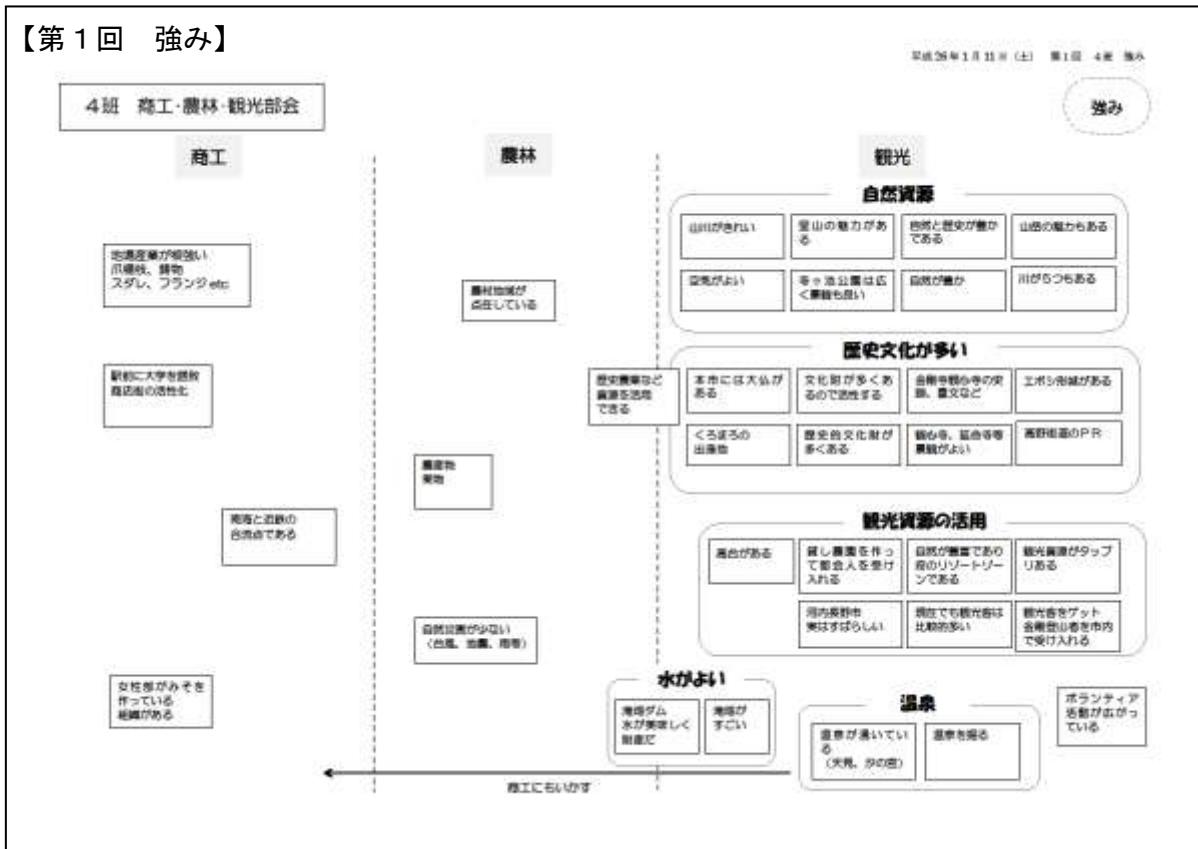
- ・郷土愛をもった人、生涯通じて学ぶ喜びをもった人、地域の課題（例えば子育てや福祉）に気づいて対応できる人を育てたい
- ・個々の持っている技能や特技、地域にいる人を活用するような仕組みをつくっていききたい
- ・人に乗ってもらうためには、いい企画を出さないといけないため、企画をつくり出せる人を育てる必要がある
- ・育てるという意味ではくろまる塾があるが、一方通行の教育になっており、中心となるリーダーの育成が必要となる
- ・行政には仕組みをつくる必要があるときの後押しや活動場所の提供をお願いしたい
- ・活動資金をどう捻出するかという問題がある
- ・このようなワークショップという形を河内長野の一つの文化、市民参加という文化にしていけたらそこから巣立っていく人がたくさん出てくるのではないかと

■情報の見える化のプロジェクト

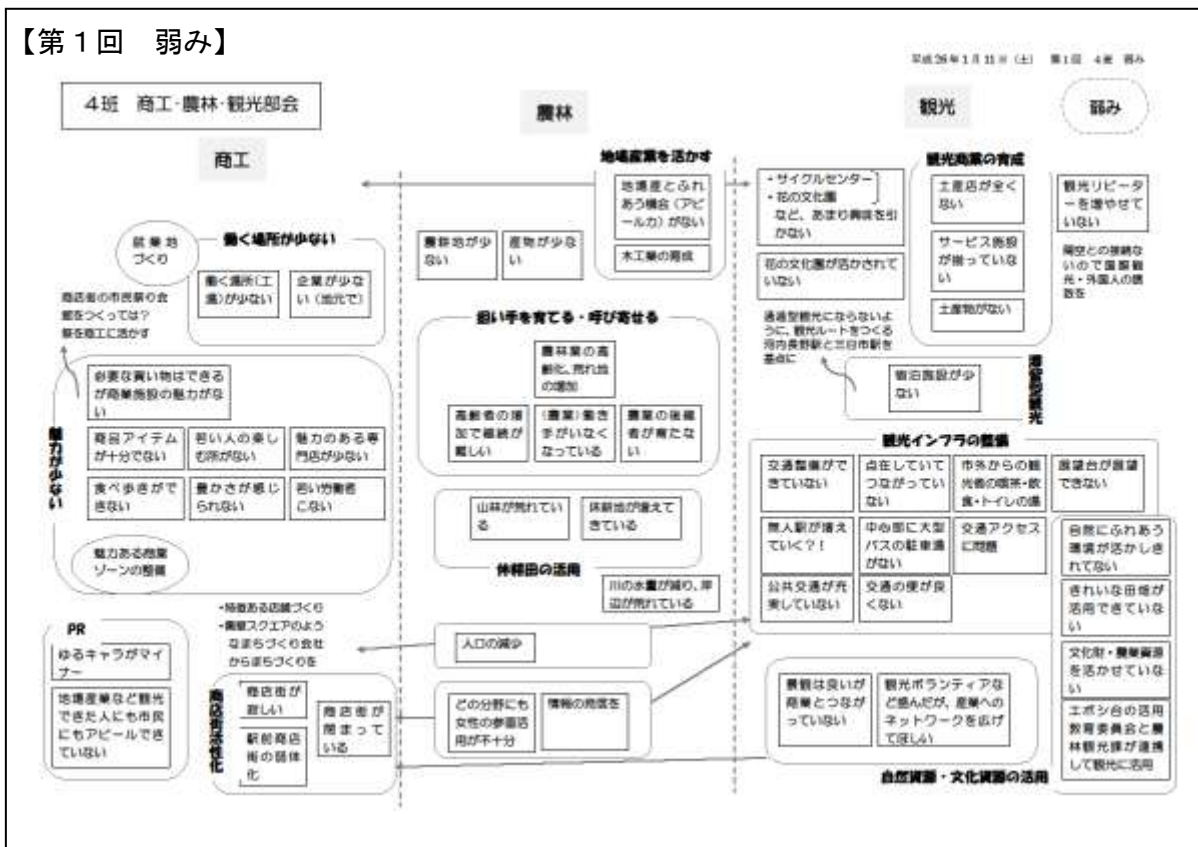
- ・市民の参画する意識を高める一つの手段として情報の見える化を行っていく
- ・市の広報やロコミで伝わっていく情報の伝わり方があるが、広報は読まない人が多い
- ・広報だけでは分かりにくいので、広報や回覧に頼らない分かりやすい何かをやっていく
- ・河内長野のモデルとして市民と行政の協働を極めるところに情報の見える化の位置づけをもっていかたい
- ・知ってよかった、参加してよかったという情報提供も必要
- ・個々の役割分担をするのではなく、市民が参画するという文化を河内長野市に根付かせ、それを行政が後押しをする、どうしても前に進みにくいところをサポートしてほしい

4班 商工・農林・観光部会

【第1回 強み】

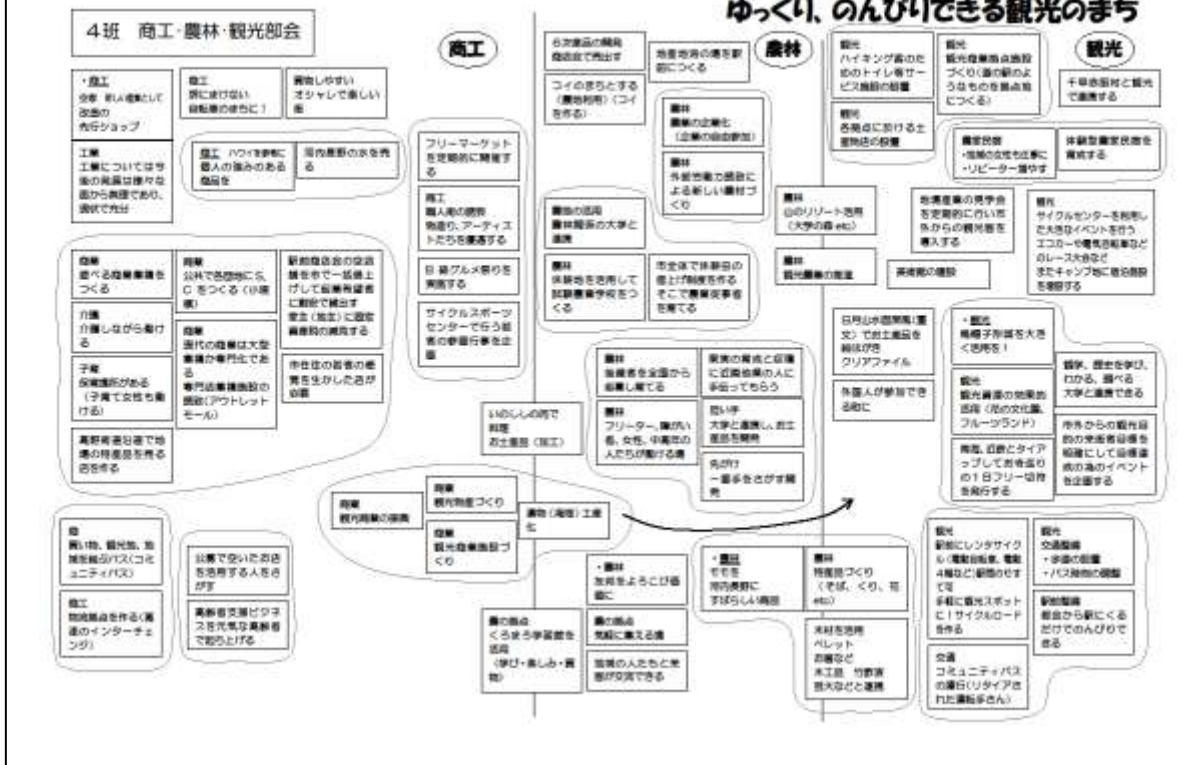


【第1回 弱み】



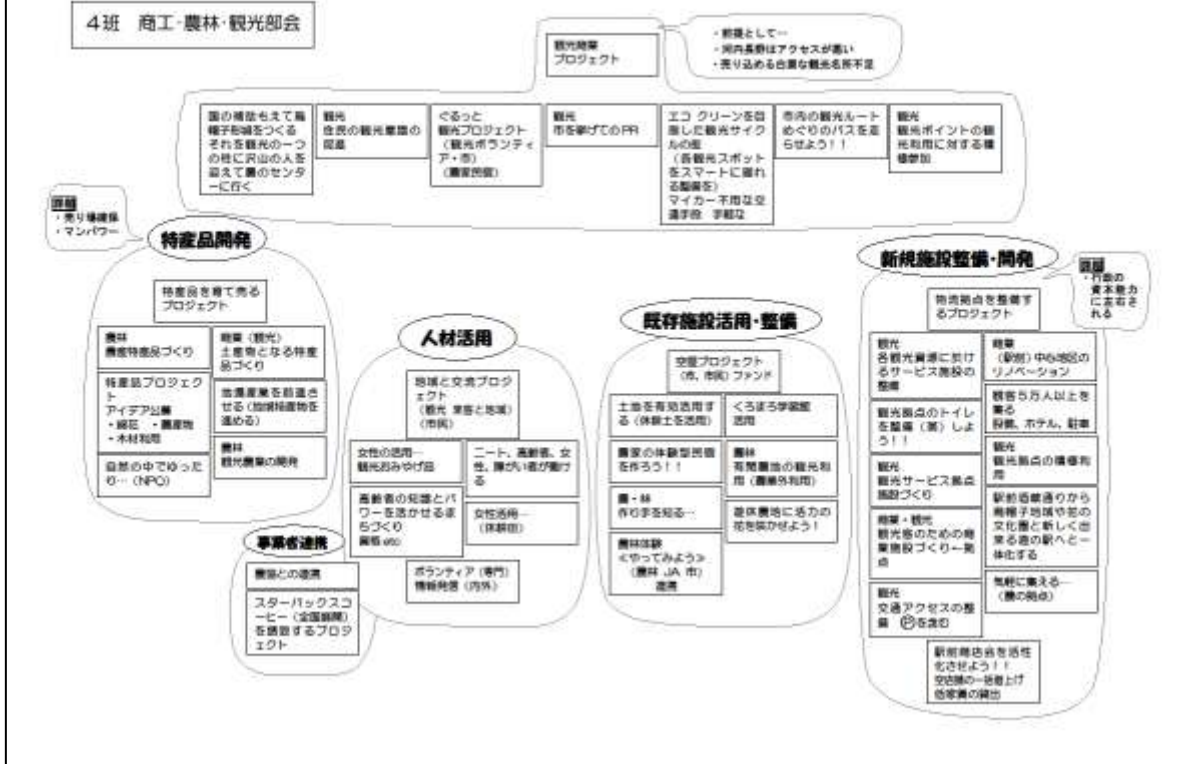
【第2回 将来像】

平成28年1月18日(土) 第2回 4組 将来像



【第3回 プロジェクト①】

平成28年2月1日(土) 第3回 4組 プロジェクト



【第3回 プロジェクト②】

平成26年2月15日(土) 第3回 4班 プロジェクト

4班 商工・農林・観光部会

【プロジェクトタイトル】

・特産品開発 //

【取組内容】

- ◎ (行政)
 - ・売る場所、整備、提供 (リスト)
 - ◎ 募集・呼びかけ
 - ◎ (市民)
 - ・特産品の洗い出し、提案
 - ・熟年/パワーの活用 (知恵)
- ◎ (事業者)
 - ◎ 日給グルメ提案

【プロジェクトタイトル】

・空屋プロジェクト (土地利用) 施設

- ◎ (行政)
 - ・リスト作り (借り安い所とか) 紹介
 - ・専門職 (行政職員専属)
 - ◎ 支援
- ◎ (市民)
 - ・空き屋の提供 (他所から来る人へ)
 - ・寄付金
 - ・利用方法の提案
 - 活用されていない施設等がある
 - ・NPOへの参加

【プロジェクトタイトル】

・情報発信 // (人材)

- ◎ (行政)
 - ・一般的な観光パンフの作成 (地図しかないから)
- ◎ (市民)

【第4回 プロジェクト】

平成26年2月15日(土) 第4回 4班 プロジェクト

4班 商工・農林・観光部会

【プロジェクトタイトル】

・土地利用 //

- ① 太陽光発電 (アイデア)
- ② 休耕田の活用 (わた、コスモス、グランドゴルフ場 etc)
- ◎ 仲介役
- ◎ 施設管理
 - NPOによる管理
 - 指定管理
- ◎ 課題 運営者の設定が難しい

・駅前活性化 //

- ① /パティの西側の空き地再開発
 - ◎
 - NPOの内部管理手伝い
 - ◎
 - 補助金活用
 - ◎ 課題
- ② 市民ファンドを作る
 - ◎
 - 参加
 - ◎
 - 土地を持っている方への説明
- ③ 中心市街地活性化法
 - ◎
 - 提案
 - ◎
 - 計画の策定

・特産品開発 販売

(何でも良い)

- ①
- ◎ 女性
 - (熟年、若年) / パワーの知恵の提供
 - 特産品の洗い出し、提案
- ◎
-
- ◎
- 商工会がイニシアティブを取る
- ② ネーミングをつける
 - ◎
 - ◎
 - 意見の公募
- ③ 市民交流会
 - ◎
 - 交流会に参加、開発
 - ◎
 - 場の提供等

【4班 商工・農林・観光部会プロジェクト発表内容】

■土地利用プロジェクト

- ・観光に利用するか、土地の広さを利用したプロジェクトを考えていったらよいのではないか
- ・河内長野の農業を考えると、休閒農地が非常に多く、木が生えていたり、萱が生い茂っている農地を農業という形で開発するのは難しい
- ・農家はほとんどが兼業で、実際に農業をやっているのは60歳以上
- ・綿やそばなど簡単に育成できる農業、農業者がやらなくてもできる農業をやってはどうか
- ・休閒農地を活用して、グランドゴルフ場としての利用できるのではないか（大阪には一つしか公認のグランドゴルフ場がない）
- ・特殊な例としては太陽光発電の場所に設定してはどうか
- ・色々な意味でお客さんが利用する農地になってくれば、2段階目としてみかんや栗といった観光農園をつくることのできるのではないか
- ・市には仲介役をやってほしい（農地は今でも普通の人を使うには難しいという意味で）
- ・活用した農地の管理をしなければならないので運営者の設定が課題

■駅前活性化プロジェクト

- ・特に河内長野の顔であるノバティ周辺の活性化をする
- ・駅前の開発後、NPO法人を立ち上げてそのメンバーで管理を手伝う
- ・NPOをつくるための資金集めが大きな問題だが、中心市街地活性化法を活用することで国から補助金を得る
- ・市民ファンドを作って、市民の皆さんにプロジェクトに参画してもらう
- ・市には地主の説得をしてほしい

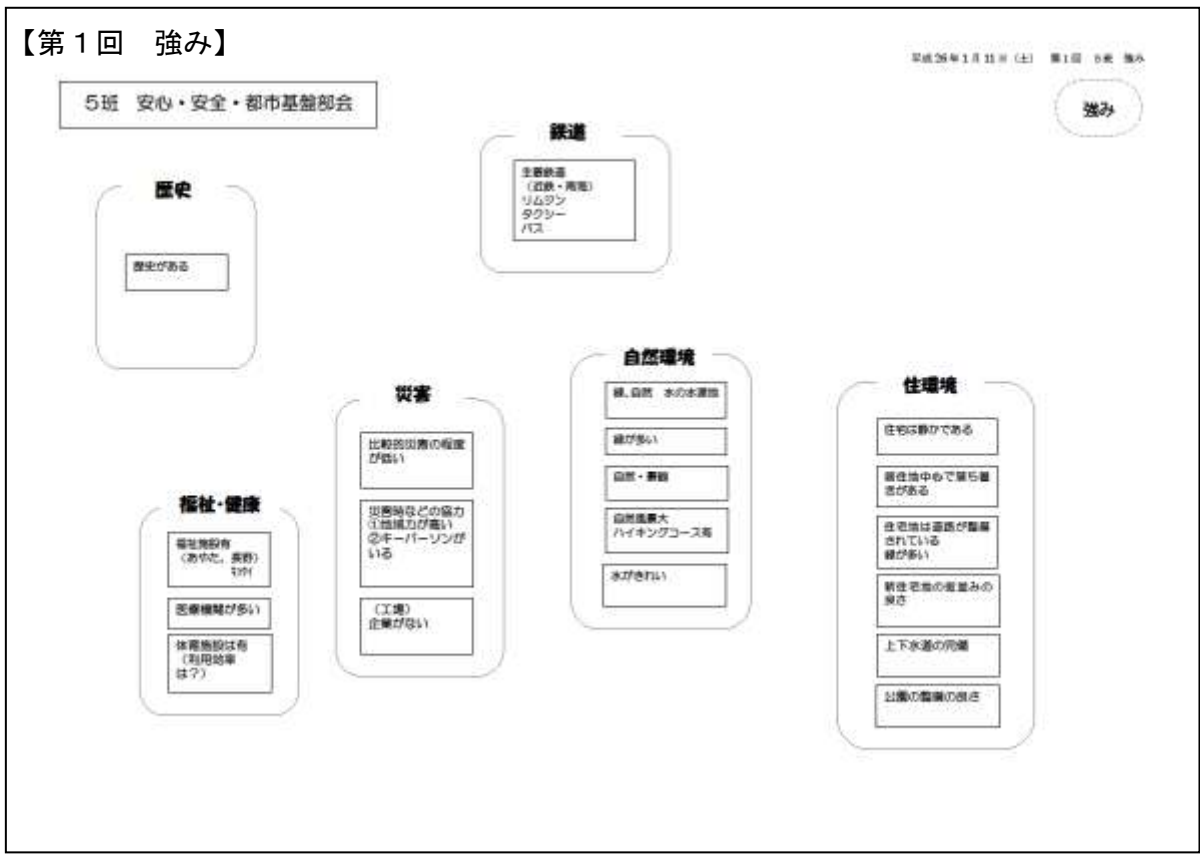
■特産品開発・販売プロジェクト

- ・観光客にお土産を持って帰ってもらい、少しでも市の収入や作っている人たちがお金を稼ぐことにつながってほしい
- ・河内長野はこれといったものがない（味噌も細々と、ジャムも出回っているが、小規模で作られているので限られた販売所でしか手に入らない）
- ・開発には若い女性の力、熟年パワーの知恵を集めて、みんなに関わり、関わることで地域の良さを知り、つくる過程でお互いのつながりができる
- ・特産品の開発には商工会がイニシアティブを取る
- ・つくったものに対して奥河内を利用しながら名前をつける
- ・どのようなものを開発するか公募で意見を募ることはみんなで考えることにつながる
- ・市には場所の提供などを協力してもらいたい

5班 安心・安全・都市基盤部会

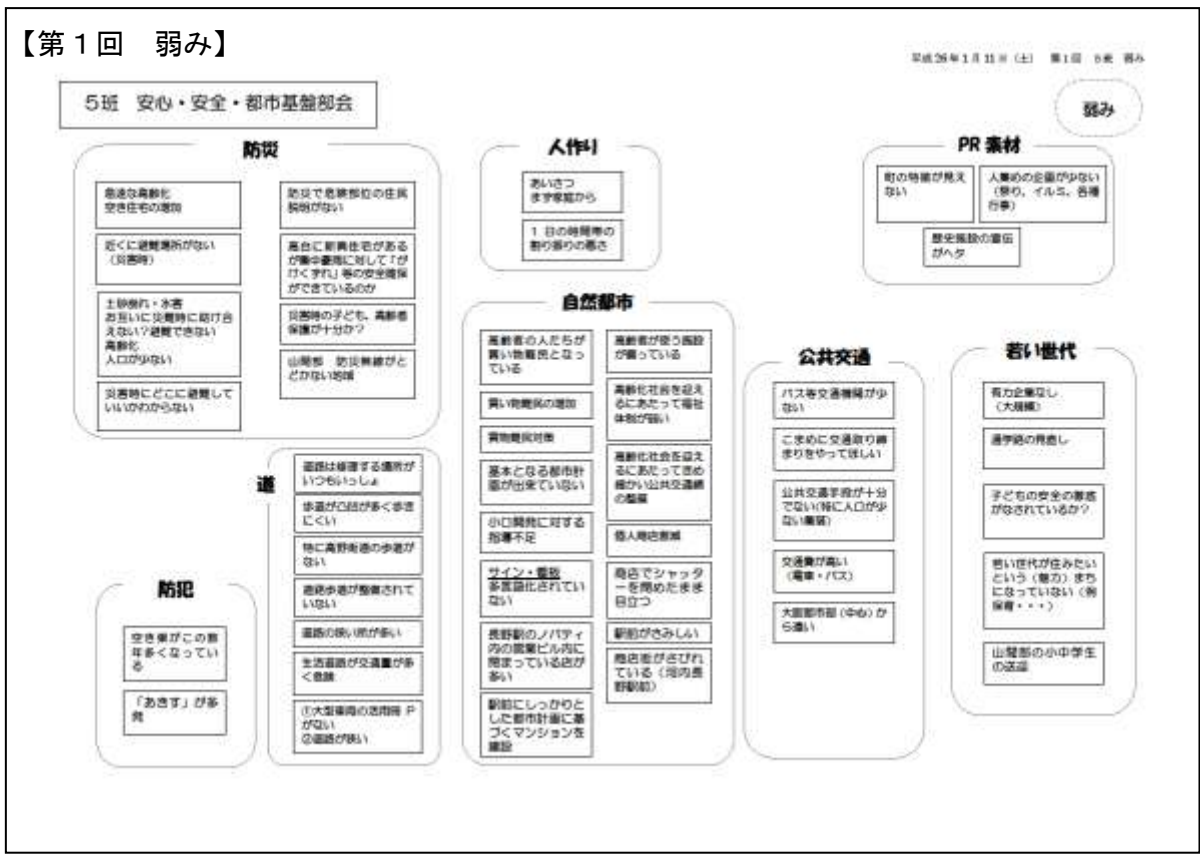
【第1回 強み】

平成26年1月11日(土) 第1回 6時 強み



【第1回 弱み】

平成26年1月11日(土) 第1回 6時 弱み



【第2回 将来像】

平成28年1月18日(土) 第2回 5班 将来像

5班 安心・安全・都市基盤部会

子ども・若者・高齢者が安心して暮らせるまち

人づくり

- 地域の70%の時間を育てる
- 都市基盤に「人のつながり」という概念を注入し、その発展を促す
- 若い世代若い人の意見を聞き、施策を考案
- 自治会参入率の向上
- 人づくりの推進、子育てなどで育児への「あいさつ」の重要性を説明し、理解を促す
- 都市基盤の観点から、高齢者人口の活用をはかる
- リタイアした人の活用、並行してボランティア
- 子供や高齢者ウォーキング大会(美野町道)

公共交通

- 公共交通文庫費が高い部分は公共交通との話し合い
- 駅までのアクセスを確保しよう
- バス・タクシーなどを市が運行させる
- 一時的な乗降をモーター化してコンパクトなものを

防災・防犯

- 近郊 山間の整備
- 防犯 警察のみならず各自治会のUP
- 「あいさつ」 通学児童に対して「おはよう!」「お帰り!」のみ
- 「あいさつ」 大人同士「おはよう!」「こんにちは」「こんばんは」 学校・児童
- 「あいさつ」 家族内で覚悟

住環境

- 自然都市 美しい自然環境が育んでいる場所の把握と試行的に動くマーケットをしてみる
- 人々がいえるようなエリアを地域の各茶に作る→アップデートして管理する
- 住宅密集地で多目的施設を誘引(既設施設の活用)
- ・市内各駅前・三日月駅前など駅前周辺にはぜひありたいが、住宅地は静かな環境を保持

駅前整備

- スクラップ&ビルド 商店街、工場等
- 若者世代の流入を図るために河内長野駅前にも〜程度のマンションを建設する
- 大型ショッピング内に店以外に市民の交流施設等を設置する

道路整備

- 道路網の整備
- ・道路を広く分ける
- ・全ての歩道をインターロッキング化する(色分け)
- 国道の歩道の整備(高規格歩道)
- 河内長野駅前から外環まで片側2車線にする
- 河内長野駅前から外環まで片側2車線にする

公共の場

- 駅前の再開発
- ・駅前都市河内長野市を再開発しよう
- ・ベッドタウンとしての安全・安心を確保しよう
- ・幼児・児童にとっても快適な河内長野市を作ろう(新築賃貸)

【第3回 プロジェクト】

平成28年2月1日(土) 第3回 5班 プロジェクト

5班 安心・安全・都市基盤部会

歩いて楽しく暮らせるまちプロジェクト

安心・安全に暮らせるまちプロジェクト

プロジェクトタイトル	歩いて楽しく暮らせるまちプロジェクト				安心・安全に暮らせるまちプロジェクト				
目的	高齢者が自立して生活できるまちづくり	高齢者が安心して暮らせば子どもも安心	コンパクトシティ化	駅前集積対策	ひとり暮らしの高齢者も安心して暮らせる地域の確立	子供連、若者と共生できる仕組み			
内容	歩道の整備 安心して歩ける	まちのなかにミニスーパー、店舗の設置	ジョウキョエリア、シゴトノエリア、ノブナツ	バスの整備 セックルバスの路線など	元気で高齢者の「人材バンク」の設立	災害時の避難場所の確保での共有	若者の集まる場所(仕事)を考案	定住地を有効活用できる土地活用	
	商店街、フコ屋などの通りを通る(大型ショッピングセンター集積とムジユンする)	ミニスーパー 高齢者が通るにわかる	一人暮らしの高齢者が多い一本道住宅を数多く取り壊して商業用途住宅を建て、この中で他のコミュニケーションを築くことが出来る。前の住宅から各層への連絡を作る	天野街道、美野街道の活用	まちづくり協議会に安心・安全のまちづくりに向けて組織	駅前・駅前 留守の監視 自治会	全地域に自主防災組織づくり	元気で高齢者の活用 防犯、見守り隊の活性化	
	駅前内に買い物施設を確保するための条件整備	生活がデザインする歩いて暮らせるまちづくり		駅を中心とした歩行者優先の整備	みんなが「あいさつ」できるまちづくり	住居参加によるハザードマップづくり	子どもと高齢者の交流イベント「ウォーキング」等の開催		
	住宅団地自治会の積極的な参加			高齢者は身近に住み続ける	市民参加の推進	道路利用の世代間隔断の解消(高齢者が下駄箱に移動など)			
資源課題		ミニスーパー まちの会員が利用する	買い物弱者対策の解消	若者の集積が盛んでいる	高齢者が少しい人の役に立つことをも願う	高齢者に入らない人のないまちづくりを推進しよう	声かけできる あいさつできる隣人でありたい		

【第4回 プロジェクト①】

平成29年2月15日(土) 第4回 5班 プロジェクト

5班 安心・安全・都市基盤部会

都市計画のやり直し
まちをつくりなおす！

ルールの無視の
ミニ開発をやめよう
☆条例をつくって規制！

思いきった駅前再開発
☆スクラップアンドビルドで！

各集落で生活を完結する
☆生活利便施設集落内で確保！

自然と地域文化を活かそう
☆森林、歴史資産の保全と活用

財源確保
☆迷惑施設の受け入れ
(国庫補助)
☆遊休農地の活用

PDCAの徹底
☆特にチェックの強化

【第4回 プロジェクト①】

平成29年2月15日(土) 第4回 5班 プロジェクト

5班 安心・安全・都市基盤部会

プロジェクト
タイトル

歩いて楽しく暮らせるまち
プロジェクト

安心・安全に暮らせるまち
プロジェクト

目的

高齢者が自立して生活できるまちづくり
高齢者が安心して暮らせば子どもも安心
コンパクトシティ化
駅前集落対策

ひとり暮らしの高齢者も安心して暮らせる地域の確立
子供連、若者と共生できる住環境
子どもの安全を守る

内容

歩道の整備
安心して歩ける
まちのなかにミニスーパー、薬局の設置
ジュウキョエリア、シゴトノエリア、ノブナカサ
バスの整備
セックルバスの路線など
商店街、フロア店などの盛り上げ
(大衆ショッピングセンターと併走しとらぶユンするがー)
一人暮らしの高齢者が多い一本道沿道を多く取り壊わして各集落内住宅を建て、この中で④のコミュニケーションを築くことが出来る
核の住宅から各集落への連絡を作る
地域内に買い物場所を確保するための条件整備
住民がデザインする歩いて暮らせるまちづくり
2020 外国人を呼ぶイベントを開催する
(等が良策はないか) 外国語の取得
住宅団地団体の積極的な参加

元高年高齢者の「人材バンク」の設立
災害時の避難場所の確保での共有
若者の集める場所(仕事)を考える
定休農地を有効活用できる土地利用
まちづくり協議会に安心・安全のまちづくりに向けて取組む
駅前・駅前留守り隊
自治会 等
高齢者によるハガードマップづくり
子どもと高齢者の双方向イベント「フォークキング」等の開催
高齢者利用の世代間情報交流の場
高齢者が下校時に数歩など

資源
課題

ミニスーパー
まちの全員が利用できる
買い物難民問題の解消
若者の集まりが盛んでいる

高齢者が少しでも人の役に立つことを目指す
高齢者に入らない人のない都市広域部で取組むことを考えたい
声かけできるあいさつできる個人でありたい
高齢者との共生
高齢者の居場所を確保する
シルバー人材センター以外にこの様なシジキが可能なところか
(高齢者誌というもの)

【5班 安心・安全・都市基盤部会プロジェクト発表内容】

■都市計画のやり直しプロジェクト

- ・少子高齢化だけの問題ではなく、そういうことが起こっている全体が問題
- ・都市計画をこれまでもやっているが、もう一度根本からやり直してはどうか
- ・河内長野はベッドタウンとしてミニ開発が進んだ結果、本来持たなければならない都市機能、都市基盤をまとめきれてないのではないか
- ・河内長野市として中心となる部分、駅前開発を思い切ってやり直してはどうか
- ・河内長野は緑が豊富で歴史、文化の資源が濃いところなので、もう一度それをしっかりまちとして位置づけてはどうか
- ・ベッドタウンなので、たくさんの住宅団地があるが、それぞれの住宅団地の中で住民の生活が完結できるようなまちづくりを目指してはどうか
- ・色々なことをやるにしても財源が問題。町の中だけでは十分得られないとすれば、外から持ってこなければならないので、国の支援をうまく取り込む努力をしてはどうか
- ・こういうことをやりましょうというだけでなく、やった結果をしっかりと反省するPDCAを徹底したまちづくり、まちの運営を行うべき
- ・全体として河内長野市を歩いて暮らせるまちという視点でまとめてみてはどうか